

Ⅱ 調査結果の概要

回復基調にあるものの、先行きが危ぶまれる

1. 全体の概況

売上高と収益性を合わせたD I 平均値（前年同期比）〔※「前年同期比」は、29年10-12月期と比較した値。以下、「同期比」と表記〕については、▲5.9となり、前回調査(30年7-9月期)の▲11.0から5.1ポイント上昇している。来期見通しにおいては、2.7ポイント下降して▲8.6となる見通しになっている。

売上高D I（同期比）については1.2となり、前回調査から7.6ポイント上昇している。来期見通しにおいては4.3ポイント下降して▲3.1となる見通しになっている。

収益性D I（同期比）については▲12.9となり、前回調査から2.7ポイント上昇している。来期見通しにおいては1.2ポイント下降して▲14.1となる見通しになっている。

業況D I（同期比）については▲6.6となり、前回調査から2.6ポイント上昇している。来期見通しにおいては3.3ポイント下降して▲9.9となる見通しになっている。

原材料価格D I（前期比）については50.7となり、前回調査から3.2ポイント上昇している。

販売価格D I（前期比）については7.4となり、前回調査から3.4ポイント上昇している。

資金繰りD I（前期比）については▲7.0となり、前回調査から0.9ポイント上昇し、好転している。

金融機関の態度D I（前期比）については2.0となり、前回調査から1.2ポイント上昇し、緩和している。

設備投資実施率については31.9%となり、前回調査から2.6ポイント上昇している。業種別で高い実施率となったのは「食料品」・「プラスチック製品」で、目的別では「増産」が25.9%でトップとなっている。

来期の設備投資計画率については33.5%となり、前回調査から3.8ポイント下降している。

設備操業率D I（前期比）については▲0.5となり、前回調査から7.0ポイント上昇している。











雇用人員判断D I（前期比）については26.1となり、前回調査から1.1ポイント下降しているが、依然として不足感が続いている。

全体の景況天気図は、6期連続して「小雨」が続いており、来期見通しにおいても「小雨」が続く見通しとなっている。

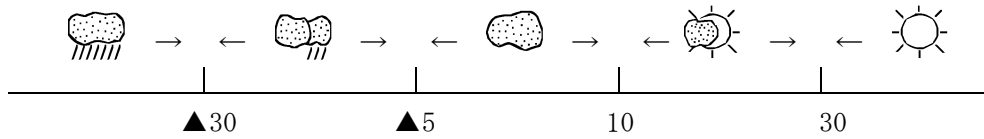
業種別に見ると「紙・加工品」は「曇」から「薄日」、「プラスチック製品」は「小雨」から「曇」、「食料品」・「窯業・土石製品」は「雨」から「小雨」へ回復している。反面、「木材・木製品」は「小雨」から「雨」へ悪化している。また、「金属・同製品」は「薄日」、「機械・機器」は「曇」、「繊維・同製品」は「小雨」と、それぞれ前回調査同様の天気図となっている。

来期見通しにおいては「食料品」が「小雨」から「曇」へ回復。反面、「金属・同製品」は「薄日」から「曇」、「紙・加工品」は「薄日」から「小雨」、「機械・機器」・「プラスチック製品」は「曇」から「小雨」へそれぞれ悪化。「繊維・同製品」・「窯業・土石製品」は小雨、「木材・木製品」は「雨」がそれぞれ続く見通しとなっている。

【図表 1】

	28	29				30				来 期 見 通
	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	
全 体	 ▲22.3	 ▲17.8	 ▲4.1	 ▲14.3	 ▲10.3	 ▲11.5	 ▲13.0	 ▲11.0	 ▲5.9	 ▲8.6

※景況天気図は「売上高」「収益性」(同期比)のD I 平均値を下記の基準に当てはめたもの。



【図表 2】

